

# 令和5年度 公共 シラバス

教科名	科目名	対象	単位数	使用教科書・副教材等
公民科	公共	2学年	2単位	7 実教 公共704『公共』（（公共704）公共）準拠公共演習ノート フォーラム公共2023（とうほう）

## 1. 学習の到達目標等

### 学習の到達目標

- 1 考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- 2 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- 3 よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

## 2. 学習計画及び評価方法等

学期	月	予定 時数	学習項目	○ 学習課題・学習活動	指導上の留意点		
1 学期			第1編 公共の扉				
			4	1	第1章 社会を作る私たち	<b>■第1章のねらい</b> ・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解させる。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解させる。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現させる。	
					1. 生涯における青年期の意義	○青年期は人生においてどのような意味をもっているのだろうか。 ・人生における青年期の意義を理解する。 ○「第二の誕生」とされる青年期において、きみたちはどのように変化していくのだろうか。 ・青年期の特徴を理解する。	・p.6の図1を活用して、生徒自身が青年期の時期にあることに着目させる。 ・青年期において生じるさまざまな変化を理解させる。
					2. 自己形成の課題（1） 3. 自己形成の課題（2）	○自分の欲求が実現されない場合、どう対応すべきだろうか。 ・青年期において直面する葛藤や欲求不満などの困難とその対処法を理解する。 ○自分の個性は、どのようにして形成されるのだろうか。 ・パーソナリティの理論を理解する。 ○自分の目標の実現と周囲からの期待が一致しない場合、どのように対処すればよいのだろうか。	・p.9の図3を活用して、防衛機制にはさまざまな種類があることに着目させる。 ・アイデンティティの確立には他者とのかわりが必要であることに着目させる。
					4. 職業生活と社会参加	○働くことや社会参加の意義はどこにあるのだろうか。 ・働くことの意義と社会参加の意義を理解する。 ○私たちはどのような社会を作っていくべきなのだろうか。	・働くことには多様な意義があることに着目させる。 ・社会参加が自己形成にも影響を与えることを理解させる。
			4	1	5. 伝統・文化と私たち	○日本人の伝統的な自然観や倫理観はどのように形成され、受け継がれてきたのだろうか。 ・日本人の伝統的な自然観や倫理観の特徴について理解する。	・日本の風土の特徴と日本人の自然観との関連に着目させる。 ・伝統的な倫理観が現代の日本人の生き方や考え方にも影響を与えていることを具体的な事例を通じて考えさせる。
					第2章 人間としてよく生きる	<b>■第2章のねらい</b> ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解させる。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現させる。	
			5	1	1. 古代ギリシアの人間観	○哲学者たちが追求した理想的な人間の生き方は、どのようなものだったのだろうか。 ・理想的な人間の生き方についてのソクラテス、プラトン、アリストテレスの主張を理解する。	・「よく生きる」ためにソクラテスが知ることと魂への配慮を重視したことに着目させる。 ・プラトンとアリストテレスが幸福に生きるために理性を重視したことを理解させる。
					2. 科学と人間	○近代ヨーロッパで生まれた、科学的な考え方は、社会にいかなる影響を与えたのだろうか。 ・近代ヨーロッパで生まれた、科学的思考を理解する。	・ペーコンとデカルトの考え方が近代科学の発展に与えた影響に着目させる。 ・p.20の図2を活用して、帰納法と演繹法の違いを理解させる。
					3. 自由の実現	○カントとヘーゲルは、自由についてどのように考えたのだろうか。 ・自由についてのカントとヘーゲルの主張を理解する。	・カントが考えた自由が「意志の自由」であることに着目させる。 ・自由に対するカントの考え方とヘーゲルの考え方の違いを理解させる。
4. 社会を作る人間	○現代の思想家たちは、より望ましい社会を作るために何を重視すべきと考えたのだろうか。 ・社会参画や公共性の確立について思索した思想家たちの主張を理解する。	・サルトルが考えた自由が責任をともなうものであることに着目させる。 ・ハーバースとアレントの思想から、公共性の実現には他者との対話が重要であることを理解させる。					
1	1	第3章 他者とともに生きる	<b>■第3章のねらい</b> ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解させる。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けさせる。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用し、自らも他者と共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現させる。				
		1. 人間と幸福	○個人の幸福や利益の追求と、社会全体の幸福や利益の増進の対立といった問題について、功利主義の思想家たちはどのように考えたのだろうか。 ・功利主義の考え方を理解する。	・功利主義が行為の正しさを幸福という結果の善さに求めたことに着目させる。 ・帰結主義と義務論の考え方の違いを理解させる。			
		2. 公正な社会をめざして	○ロールズやセンが考える公正な社会とは、どのような社会だろうか。 ・社会の公正なあり方について思索したロールズとセンの主張を理解する。 ○現在、正義をめぐる、どのような議論がなされているのだろうか。 ・リパタリアニズムやコミュニタリアニズムの主張を理解する。	・ロールズが唱えた二つの原理の内容を理解させる。 ・ロールズの考え方とセンの考え方の違いを理解させる。			

	第4章 民主社会の倫理	<p>■第4章のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各人の意見や利害を公平・公正に調整することを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。</li> <li>人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。</li> <li>公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> </ul>		
1	1. 人間の尊厳と平等	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の尊厳と平等は、社会のなかでどのように実現されるべきものだろうか。</li> <li>人間の尊厳と平等といった原理の背景にある考え方を理解する。</li> <li>差別や偏見をなくすためには、どのような態度が求められるだろうか。</li> <li>差別や偏見を是正するための取り組みやその背景にある考え方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の尊厳や平等と個人の尊重との関連に着目させる。</li> <li>現実社会における差別や偏見の問題を具体的な事例を通じて考えさせる。</li> </ul>	
6	1	2. 自由・権利と責任・義務	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由・権利と責任・義務がどのような関係にあるのかを理解させる。</li> <li>世代間の正義にかかわる問題について、具体的な事例を通じて考えさせる。</li> </ul>	
	第5章 民主国家における基本原理	<p>■第4章のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各人の意見や利害を公平・公正に調整することを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。</li> <li>個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。</li> <li>公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現させる。</li> </ul>		
1	1. 民主政治の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代の市民革命によって政治のあり方はどのように変化してきたのだろうか。</li> <li>民主政治の誕生と発展について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>p.40の年表1を活用して、民主政治の歴史的な展開を理解させる。</li> <li>p.43の図3を活用して、法の支配の特徴に着目させる。</li> </ul>	
2	2. 民主政治のしくみと課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる個人の意見をどのように政治に反映させていけばよいのだろうか。</li> <li>民主政治の意義と課題について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主政治が課題をもつ政治制度でもあることに着目させる。</li> <li>p.48、49の図2、3、4を活用して、各政治制度の特徴を理解させる。</li> </ul>	
	2	4. 世界の主な政治制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>異なる個人の意見をどのように政治に反映させていけばよいのだろうか。</li> <li>民主政治の意義と課題について理解する。</li> <li>世界の国々ではリーダーにどのような権限を与え、政治を運営しているのだろうか。</li> <li>議院内閣制・大統領制をはじめとする各国の政治制度について理解する。</li> </ul>	
	第2編 よりよい社会の形成に参加する私たち			
	第1章 日本国憲法の基本的性格	<p>■第1章のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解させる。</li> <li>我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるようにするとともに、我が国の防衛に関する基本的な事柄にも触れながら、変化する国際情勢の中で、我が国の安全が世界の平和の維持といかに不可分に関連しているかについて理解させる。</li> <li>現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。</li> <li>自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。</li> </ul>		
2	1. 日本国憲法の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法はどのように成立したのだろうか。</li> <li>日本国憲法の成立の経過について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>p.55の表3を活用して、大日本帝国憲法と日本国憲法の比較を通じて、日本国憲法の特徴を理解させる。</li> </ul>	
2	2. 日本国憲法の基本的性格	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法の三大基本原理は憲法にどのように規定されているのだろうか。</li> <li>日本国憲法の基本原理について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法の基本原理が国民主権、基本的人権の尊重、平和主義であることを理解させる。</li> </ul>	
2	3. 自由に生きる権利	<ul style="list-style-type: none"> <li>憲法で保障されている自由権の内容は、どのようなものだろうか。</li> <li>自由権の内容について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>憲法で保障されているさまざまな自由権について、具体的な判例を通じて理解させる。</li> <li>現代においても、さまざまな差別が残っていることを具体的な事例を通じて理解させる。</li> </ul>	
2	4. 平等に生きる権利	<ul style="list-style-type: none"> <li>平等に生きる権利は、日本国憲法にどのように定められているのだろうか。</li> <li>平等権の内容について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会権の保障と現実の政策をめぐる課題について着目させる。</li> </ul>	
2	5. 社会権と参政権・請求権	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法は人間らしい生活の実現のためにどのような権利を保障しているのだろうか。</li> <li>社会権の内容について理解する。</li> </ul>		
7	2	6. 新しい人権	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法では明確に規定されていないさまざまな権利にはどのような種類があり、どのような必要性から主張されるようになったのだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会が変化するなかで重視されるようになったさまざまな権利の内容を理解させる。</li> <li>公共の福祉が、個人の権利を等しく尊重し、適正な調整をはかるための原理であることに着目させる。</li> </ul>
2	7. 人権の広がりや公共の福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい人権について理解する。</li> <li>人権と人権が衝突した場合、どのように調整すべきなのだろうか。</li> <li>公共の福祉について理解する。</li> </ul>		
2	8. 平和主義とわが国の安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>日米安保条約と自衛隊はどのような経過をたどって生まれたのだろうか。</li> <li>日本の安全保障政策の展開について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>p.71の表3を活用して、自衛権に関する政府解釈が変化していることに着目させる。</li> <li>世界情勢の変化と安全保障体制の変化の関連について理解させる。</li> </ul>	
2	9. こんにちの防衛問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>安保体制の役割の変化は、安全保障の観点からどのような問題点が指摘されているのだろうか。</li> </ul>		
9	第2章 日本の政治機構と政治参加	<p>■第2章のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解させる。</li> <li>政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することを通して築かれるものであることについて理解させる。</li> <li>現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。</li> <li>自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。</li> </ul>		
2	1. 政治機構と国会	<ul style="list-style-type: none"> <li>国会には、どのような権限が与えられているのだろうか。</li> <li>国会の役割や権限について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>p.76の図1を活用して、日本の三権分立がどのような状態になっているかを視覚的に理解させる。</li> <li>p.78の図2を活用して、内閣の構成について理解させる。</li> </ul>	
1	2. 行政権と行政機能の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>内閣はどのような構成で、どのような権限をもっているのだろうか。</li> <li>内閣の権限と議院内閣制について理解する。</li> </ul>		
1	3. 公正な裁判の保障	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たちは司法にどのようにかかわっていくことができるのだろうか。</li> <li>司法制度のあり方や司法参加の意義について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>裁判に市民が参加する制度として導入された裁判員制度について理解させる。</li> </ul>	
1	4. 地方自治と住民福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の政治を住民自身がおこなうために、住民に保障されている権利にはどのようなものがあるのだろうか。</li> <li>地方自治の本旨や住民の権利について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>p.86の図1を活用して、地方自治における議会、首長、住民の関係について視覚的に理解させる。</li> <li>p.87の図を活用して、地方財政の課題について理解させる。</li> </ul>	
1	5. 政党政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の政党政治にはどのような特徴と課題があるのだろうか。</li> <li>日本の政党政治の特徴と課題について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>p.91の戦後の政党の系譜図を活用して、戦後日本の政党政治の展開を理解させる。</li> <li>p.92の表1を活用して、各選挙制度の特徴に着目させる。</li> </ul>	
1	6. 選挙制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の選挙制度にはどのような特徴と課題があるのだろうか。</li> <li>日本の選挙制度の特徴と課題について理解する。</li> </ul>		
1	7. 世論と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>マス・メディアや市民運動はどんな意義をもっているのだろうか。</li> <li>マス・メディアや市民運動の意義について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNSなどのインターネットが世論形成に与える影響について、具体的な事例を通じて理解させる。</li> <li>p.95の図1を活用して、投票率低下の課題に着目させる。</li> </ul>	

	第1章 現代の経済社会	<p><b>■第1章のねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通じて資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。</li> </ul>	
10	1. 経済主体と経済活動の意義 2. 経済社会の変容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○限りある資金や資源は、どのように選択され配分されているのだろうか。</li> <li>・経済的な効率性と公平性の対立関係について考える。</li> <li>○資本主義経済はどのように発展し、どのような課題を抱えているのだろうか。</li> <li>・政府の規模を念頭に、経済的な課題への対応を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済の根本的な概念について、たとえば資源配分については各経済主体の行動を具体的に示して理解させる。</li> <li>・国家の経済への介入や世界経済との一体化など、20世紀以降進展した資本主義経済の変容を理解させる。</li> </ul>
	3. 市場のしくみ 4. 市場の失敗	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商品の価格はどのようにしくみで決められているのだろうか。</li> <li>・需給曲線を通して市場メカニズムを考える。</li> <li>○市場が必ずしも有効に機能しないのは、どのような場合なのだろうか。</li> <li>・市場の効率性と公平性はどのように調整されるべきか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財やサービスの価格と生産量の関わりについて具体例を示し理解させる。</li> <li>・価格の変化が消費者と企業の行動にどのような影響を及ぼしているか理解させる。</li> </ul>
	5. 現代の企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○株式会社はどのようなしくみを持った企業なのだろうか。</li> <li>○現代の企業には利益の追求以外に何が求められているのだろうか。</li> <li>・企業の役割と社会的責任について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業には、活発な経済活動と個人の尊重を両立させることが必要であることを理解させる。</li> </ul>
	6. 国民所得 7. 経済成長と国民の福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経済活動を図る指標であるGDPやGNI、NIには何が含まれているのだろうか。</li> <li>・NIから三面等価の原則について考える。</li> <li>○物価や景気の変動はなぜ起こるのだろうか。</li> <li>・経済成長と私たちの豊かな生活について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な経済指標について、その特徴を理解させる。</li> <li>・景気変動のそれぞれの局面とインフレ・デフレとの関係性について理解させる。</li> </ul>
	8. 金融の役割 9. 日本銀行の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>○金融機関や金融市場が資金供給に果たす役割は何だろうか。</li> <li>○金融の自由化や国際化によって、金融取引はどのように変化したのだろうか。</li> <li>・金融を通じた経済活動の活性化について考える。</li> <li>○日本銀行は物価の安定にどのような役割を果たしているのだろうか。</li> <li>・様々な金融商品を活用した資産運用に伴うリスクとリターンなどについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金融市場の仕組みと金利の動き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割、中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解させる。</li> <li>・近年の金融制度改革の動向や金融政策の変化などを理解させる。</li> </ul>
11	10. 財政の役割と租税 11. 1. 日本の財政の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○政府は何を目的に、どのような財源を使って経済活動を行っているのだろうか。</li> <li>・財政の持つ様々な役割について考える。</li> <li>○日本の税制はどのように改革されてきたのだろうか。</li> <li>・納税者としての立場から租税の在り方について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政の持つ3つの役割について理解させる。</li> <li>・租税を中心とした公的負担の意義と必要性について理解させる。</li> </ul>
	第2章 日本経済の特質と国民生活	<p><b>■第2章のねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通じて資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。</li> </ul>	
	1. 戦後日本経済の成長と課題 2. 転機に立つ日本経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本経済はどのように成長してきたのだろうか。</li> <li>・歴史的な事象が日本経済に与えた影響を、統計資料を基に考える。</li> <li>○日本経済は、どのような課題に直面しているのだろうか。</li> <li>・人口減少社会と格差・貧困が経済に与える影響を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本節の内容は歴史総合でも扱うため、統計資料によって成長や停滞の背景を理解させる</li> <li>・これからの経済社会については労働・社会保障の節とも関連させて理解させる。</li> </ul>
	3. 経済社会の変化と中小企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中小企業とは何か。大企業とはどのような点で違いがあるのだろうか。</li> <li>・経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を考える。</li> <li>○国際化や少子高齢化のなかで、中小企業が直面している課題は何だろうか。</li> <li>・社会とのかかわりに着目して、これからの中小企業の変容を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度経済成長から取り残された中小企業について、持続可能性が問われている現状を理解させる。</li> <li>・一方で、創意工夫によって成長を遂げている中小企業のあり方や実例を理解させる。</li> </ul>
	4. 農業と食料問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○戦後の日本農業は、どのような政策の下で進められてきたのだろうか。</li> <li>・とくにコメの生産と輸入との関係について考える。</li> <li>○高齢化が進むなか、日本の農業が直面する課題は何だろうか。</li> <li>・農業の自由化を背景として改革が進められている農政について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業構造の高度化や農政の変化に振り回されてきた農業の現状を理解させる。</li> <li>・グローバル化のなかで今後の農業をめぐって、保護論と自由化論の一大分岐にあることを理解させる。</li> </ul>
	5. 消費者問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○消費者問題にはどのようなものがあるのだろうか。</li> <li>・典型的な悪質商法などの手口を学び、その対応策を考える</li> <li>○消費者の権利とはどのようなものだろうか。また、契約を行う際に生じる責任とはどのようなものだろうか</li> <li>・消費者行政の内容を知り、契約の権利と責任の関係を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者問題が続くなか、消費者行政が保護から自立へと変化していることを理解させる。</li> <li>・民法改正による成年年齢の引き下げでさまざまな権利と責任が生まれることを理解させる。</li> </ul>
	6. 公害の防止と環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産業公害はなぜ発生したのだろうか。</li> <li>・経済成長と公害問題との関係を考える。</li> <li>○循環型社会の実現に向けて解決すべき課題は何だろうか。</li> <li>・法制度の整備のほか、私たち消費者の行動について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公害問題は基本的人権との関係でも課題であることを理解させる。</li> <li>・環境保護と経済成長は両立するべき概念であることを理解させる。</li> </ul>
12	7. 労働問題と労働者の権利 8. 今日の労働問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職場環境や労働者の諸権利に関して、どのような課題があるだろうか。</li> <li>・労働法の整備状況や、職場の人権保障について考える。</li> <li>○雇用や労働慣行にどのような変化や課題が生じているだろうか。</li> <li>・日本的雇用形態の変化や、ワーク・ライフ・バランスについて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働契約の特性、労働法による労働者の権利保護の状況について理解させる。</li> <li>・日本的雇用形態の崩壊や雇用の流動性が強まるなかで、労働のあり方が問い直されていることを理解させる。</li> </ul>
	9. 社会保障の役割 10. 社会保障制度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の社会保障制度のしくみは、どのようになっているだろうか。</li> <li>・諸外国の制度との比較も含めて考える。</li> <li>○日本の社会保障にはどのような課題があるか。</li> <li>・少子高齢化が進捗する中で、財源と対象を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障がなぜ必要とされてきたのかを、社会保障の歴史をたどることで理解させる。</li> <li>・これからの日本の社会保障制度について、受給と負担のバランスが議論の中心になっていることを理解させる。</li> </ul>
	第1章 国際政治の動向と課題	<p><b>■第1章のねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり、国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解させる。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。</li> </ul>	
	1. 国際社会と国際法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際政治や国際法とはどのようなものか。</li> <li>・国内政治や国内法との比較で考える。</li> <li>○国際法や国際政治はどのように変容したか。</li> <li>・二度の世界大戦が国際法と国際政治に与えた影響について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会には世界政府のような存在がないため、国際社会においては各国の力関係がものをいうパワーポリティクスに陥りやすいことを理解させる。</li> <li>・国際法が戦争の違法化だけでなく、人権擁護環境保護など豊富な内容になっていることを理解させる。</li> </ul>
	2. 国際連合と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際連合は、どのような活動をおこなっているのだろうか。</li> <li>・主要機関や専門機関の働きから考える。</li> <li>○国際連合は、どのような課題を抱えているのだろうか。</li> <li>・とくに安保理改革を材料に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連合が世界の平和と安全の維持のために多くの専門機関や関連機関と連携していることを理解させる。</li> <li>・しばしば大国間の利害対立によって意思決定が阻害されている現状を理解させる。</li> </ul>

3 学期	1	3. こんにちの国際政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>○冷戦の終結で、国際社会はどのように変化しただろうか。</li> <li>・対立構造の変容から、国際社会の力学の変化を考える。</li> <li>○こんにちの国際社会が直面する課題は何か。</li> <li>・大国の動向や、国家対国家の枠組みに収まらない対立構造について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦期以降の国際政治情勢について、対立する主体に注目して理解させる。</li> <li>・大国のナショナリズムによって新たな対立が生じている現状を理解させる。</li> </ul>	
	1	4. 人種・民族問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○民族をめぐる対立は、なぜ生じるのだろうか。</li> <li>・ナショナリズムや自民族中心主義との関係から考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人種・民族問題は過去のものではなく、現実の課題として残っていることを具体的な事例から理解させる。</li> <li>・偏狭なナショナリズムを乗り越えて、多文化主義に立脚した問題解決が重要であることを理解させる。</li> </ul>	
	1	5. 軍拡競争から軍縮へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第二次世界大戦後、なぜ軍備拡大が進められたのだろうか。</li> <li>・冷戦による対立構造と安全保障のジレンマを確認する。</li> <li>○核兵器のない世界の実現のために、どのような課題があるだろうか。</li> <li>・核兵器禁止条約の採択に向けた動きを参考にして考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦期の軍拡競争以降、世界的な運動によって軍縮が進んでいることを理解させる。</li> <li>・核の保有国と非保有国の意見の相違と国力の関係などについて、多面的に検討させる。</li> </ul>	
	1	6. 国際平和と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>○戦後の日本はどのような外交を展開したのだろうか</li> <li>・とくにアジア諸地域の信頼回復の経緯を確認する。</li> <li>○日本が国際社会で果たすべき役割は何か</li> <li>・人間の安全保障の観点から考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の戦後外交について、外交の三原則に基づいて進められてきたことを理解させる。</li> <li>・ODAやPKOだけではなく、人間の安全保障の観点からも国際貢献が求められていることを理解させる。</li> </ul>	
	第2章 国際経済の動向と課題		<b>■第2章のねらい</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解させる。</li> <li>・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けさせる。</li> <li>・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。</li> </ul>		
	1	1. 貿易と国際収支 2. 外国為替市場のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○貿易はなぜ行われているのか</li> <li>・比較生産費説を検討して考える。</li> <li>○貿易の動向はどのように変化してきているのだろうか。</li> <li>・貿易収支の数値から一国の貿易の動向を確認する。</li> <li>○円相場はどのように決まるのか</li> <li>・外国為替市場における需要と供給の関係を確認する。</li> <li>○円高と円安は何が原因で生じるのか</li> <li>・具体的な事例を基にして為替相場の動向が経済に与える影響を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較生産費説と国際分業の利益については、具体例と演習問題を通じて十分に理解させる。</li> <li>・国際収支表によって、日本の貿易・投資がどのように変化しているかを理解させる。</li> <li>・円高と円安が日本経済に及ぼす影響について、具体的な貿易を想定して理解させる。</li> </ul>	
	1	3. 第二次世界大戦後の国際経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際経済体制はどのように変化してきたか。</li> <li>・本文や図版資料を基に、歴史的な経過を確認する。</li> <li>○国際経済体制はどのような課題に直面しているか。</li> <li>・ドーハラウンドにおける先進国と途上国の対立や、二国間交渉への傾倒などから課題を考え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通貨や貿易体制の枠組みを規定したIMF・GATT体制と、その変容の歴史を理解する。</li> <li>・二国間交渉が進められている一方、旧来の多角交渉も継続されていることを理解させる。</li> </ul>	
	1	4. 地域的経済統合の進展	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域的経済統合の締結は、どのように進められてきただろうか。</li> <li>・各地域の状況を確認する。</li> <li>○世界的規模で経済統合が模索されるなか、日本はどのように対応しているのだろうか。</li> <li>・多角主義の原則から二国間協定への流れ、さらにメガFTAの挑戦といった過程を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地で経済統合と自由貿易が進展している現状を理解させる。</li> <li>・EUを例として、経済統合のメリットとデメリットを理解させる。</li> </ul>	
	1	5. 国際経済のつながりと課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバル化によって経済や社会はどのように変容したか。</li> <li>・ヒト・モノ・カネが自由に移動した結果、世界はこれまで以上に緊密化したことを確認する。</li> <li>○グローバル化が進んだ世界はどのような課題に直面しているか。</li> <li>・金融危機などの影響もグローバル化し、富の偏りも世界規模に拡大したことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済のグローバル化がもたらしたメリットとデメリットを、それぞれ理解させる。</li> <li>・国際的な資本取引の規制やデジタル課税の動向など、最新事象についても補足して理解させる。</li> </ul>	
	1	6. 発展途上国の諸課題と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発展途上国は経済発展のために、どのような対応をとってきただろうか</li> <li>・資源ナショナリズムや新国際経済秩序樹立に関する宣言などを通して考える。</li> <li>○先進国は、途上国の経済発展のためにどのような協力をおこなってきただろうか。</li> <li>・ODAからSDGsにつながる援助と開発の過程について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困や格差が解消されていない現状と、その解決が国際的な目標となっていることを理解させる。</li> <li>・日本政府や私たちが国際的な貧困や格差を解消するために行動することが求められていることを理解させる。</li> </ul>	
第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		<b>■第3編のねらい</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述させる。</li> <li>・この科目のまとめとして位置付け、社会的な見方・考え方を総合的に動かせ、第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を一層高める。</li> <li>・個人を起点として、自立、協働の観点から、多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら探究する。</li> </ul>			
3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○持続可能な地域、国家・社会、国際社会づくりのためには何が必要だろうか。</li> <li>・社会的な見方・考え方を総合的に動かせ、現実社会の諸課題を探究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の探究に当たっては、法、政治及び経済などの個々の制度にとどまらず、各領域を横断して総合的に探究できるよう指導すること。</li> </ul>		